巻頭言

麻酔科医も経胸壁心エコー図法の修得を

大下修造*

麻酔科領域における経食道心エコー図法の普及にはめざましいものがある．私は，昭和63年，金沢市で開催された第35回日本麻酔学会におけるシンポジウム「虚血心の病態と麻酔管理」で発表する機会を与えられ，「虚血心のモニタ」というテーマで報告した．発表の内容は，主として心筋虚血時の心電図変化と，当時注目されていた肺動脈楔入圧のAC波，V波の変化について述べ，最後に，将来的可能性として経食道心エコー図法の有用性についても少し触れた．同じシンポジウムで発表された東京女子医科大学循環器内科の先生も，「麻酔科医は経食道心エコー図法を修得しなくてはならない」と強調されていた．当時，私が所属していた山口大学には，日本における経食道心エコー図法開発のパイオニア的存在である松崎益徳先生（現山口大学第二内科教授）がおられ，その有用性については十分に理解していたが，何しろ心エコー図の器機本体が山口大学麻酔科にはなかったため，自分自身では経験がなかった．シンポジウムでの発表も，松崎先生のスライドを拝借して報告することができた．当時，日本の麻酔科で経食道心エコー図の器機本体を所有していたのは数施設ではなかったかと思う．その後，麻酔関連の多くの学会で，経食道心エコー図に関する多くのシンポジウム，ワークショップが企画され，経食道心エコー図法は麻酔科領域において急速に普及してきた．器機の性能の優劣を問わなければ，現在では，必要とする施設のほとんどが経食道心エコー図の器機を所有しているといっても過言ではあるまい．

最近，麻酔科外来で術前紹介患者を診察しているとき，あるいはCCUに急性心筋梗塞患者が搬入されたときなど，われわれ麻酔科医も，そろそろ経食道心エコー図法を卒業し，経胸壁心エコー図法を修得するべき時が来たのではないかと痛感している．「経食道心エコー図法では描出できる範囲が限られているため，次第に物足りなくなる」という循環器内科のドクターの話を思い出し，また術前紹介患者やCCUに搬入された急性心筋梗塞患者の心機能評価を循環器内科に依頼するたびに，われわれ麻酔科医が経胸壁心エコー図法を修得していれば，循環器内科に紹介する必要はないのにと考えさせられる．CCUは当然として，将来的には麻酔科外来にも経胸壁心エコー図の器機を準備し，術前紹介患者の心機能をその場で評価できる体制を作りたいと考えている．おそらく，日本の麻酔科の数施設では，すでにそのような体制を確立されていると思われるが．

*徳島大学医学部麻酔科学教室

Presented by Medical*Online